

木村定三・横井礼以往復書簡（翻刻）

石崎 尚（編）

【翻刻について】

本稿は、木村定三と横井礼以の間で交わされた書簡を翻刻したものである。木村定三宛ての書簡は、愛知県美術館に所蔵されている木村定三コレクション関連資料を、横井礼以宛ての書簡は名古屋市美術館に所蔵されている横井礼以旧蔵資料を参照した。翻刻にあたっての例言は以下の通りである。

- 一、書簡は日付順に掲載した。
- 二、書簡の区別を行うために便宜的に数字四桁の番号を付けた。
- 三、書簡は書簡番号、差出人と宛名、日付、消印（判読可能なもののみ）、内容の順で記載した。封筒に記載された住所その他については、木村と横井の住所が基本的には変わらないことから割愛した。日付は消印が残っており、かつ判読可能な場合は消印の日付を採用し、そうでない場合は文中もしくは封筒に差出人が記入した日付を記載した。また、文脈から考慮し編者が判断したものもある。
- 四、書簡中に登場する横井作品で同定もしくは推定が可能なもののみ、別途註で補った。特に断りがない限り、愛知県美術館の木村定三コレクションに含まれる作品を示し、コレクション番号を示した。

書簡〇〇一〇 (M2917-1) 横井礼市 ↓ 木村定三 昭和一四年一月四日消印 当館蔵

（案内状）

謹啓 時下爽秋の候貴台愈々御清祥の御こと、お悦び申し上げます。

扨今回當市の至寶二科會員横井禮市先生が珍らしくも初めて試みられたる、紙本淡彩畫の逸品若干点を請ひ得て、こゝに大方諸彦の御清鑑を仰ぐこと、なりました。就きましては御多忙中洵に恐縮ながら、何卒御來賀御高覽の榮を賜り度御待ち申上げます。

近年洋畫家の試みられたる新毛筆畫が非常に歡迎されて居りますが、先生の今回の試みは在來の行きつまつた因習を根底から打破して、如何にも今日の日本人に應しい一つの新しい眼を與へられた感が致します、その簡潔にして力強く、而も潑刺として自由自在なる表現に至つては、全く之までの所謂日本畫には到底觀ることの出來なかつた不思議な魅力の世界が展開されて居ります。「これからの日本畫と洋畫とはほんの紙一枚の差だ」と先生自ら述べて居られますが、この獨創的な先生の境地の一端が及つて今度の新毛筆畫のなかにこそ一層ハッキリと窺はれるのではないかと信じます。

昭和十四年十一月 名古屋 丸善

横井禮市先生

新毛筆畫展覽會

一、會期 御招待日 十一月七日

一般公開 八日より十一日まで

一、會場 弊店 於 三階別館

（目録）

横井禮市先生日本書展覽會目錄

會期・昭和十四年十一月七日―十一日
丸善名古屋支店

- 一 石楠花
- 二 梟
- 三 デンドロビウム
- 四 椿と山吹
- 五 榮螺
- 六 鐵砲百合
- 七 パンヂー
- 八 梅林
- 九 枯木に鷺
- 一〇 朝顔
- 一一 猿
- 一二 フリーヂヤ
- 一三 茄子
- 一四 金絲鳥
- 一五 枇杷
- 一六 椿に虻
- 一七 桃枝
- 一八 蛤
- 一九 蔬菜静物
- 二〇 岩つばめ
- 二一 駝鳥
- 二二 木瓜
- 二三 芭蕉に蝸牛
- 二四 丹頂
- 二五 無花果
- 二六 山路
- 二七 鳩
- 二八 葛紅葉
- 二九 駝鳥の群

- 三〇 スキートピー
- 三一 那智瀧
- 三二 藍竹
- 三三 舞妓
- 三四 へちまに蠅螂
- 三五 瑠璃金剛
- 三六 萩
- 三七 眞那鶴
- 三八 斑節蝦と淺蜷
- 三九 ねぎ坊主
- 四〇 果物

書簡〇〇一〇 (M2917-2) 横井禮市 ↓ 木村定三 昭和●●年五月
 二七日(消印判読できず、《鴨のうかぶ湖(琵琶湖)》の制作年から考
 ると昭和一五年が妥当か) 当館蔵

拝啓、連日鬱陶しひ天氣ですがその後お変わりありませんですか御伺申し
 上げます。扱本^き日本東本君を通じて「鴨の浮ぶ湖」の画料金参百円也正
 く拝領致しました右厚く御礼申し上げます。猶大阪にお話の「桜」はその
 後高島屋より会期を延期致して参りました六月一日より五日間といふこ
 とに成りましたので返送致して参りました後日お目にかけ度存じて居り
 ます。このところ一週間ばかり旅行致し度いと思ひますのでいづれ帰
 宅の時拝顔し上度く御願申し上げます。 不悪
 五月廿七日 横井禮市

1 当館蔵 (M2659)。

木村定三様

書簡〇〇三〇 木村定三 ↓ 横井礼以 昭和一六年一月二〇日消印
名古屋市美術館蔵

紀元貳千六百第一年の新春を御祝申立候
陳者昨年末中野氏より志賀高原の繪²並に栢南花の繪³を御届け被下候
処

小生雑事に追はれ御挨拶遅れ失禮の段御寛容被下度候
早速御禮の御金御届け申上ぐべき処

失禮乍ら小切手にて同封致候間御査収被下度候
尚御言葉に甘へ號三十円の割にて計算致候

栢南花の繪は部屋に掛け其の後毎日眺め居候も見る度に
氣分新しく全く名品と存じ候

是非花の繪の個展を近き將來御開催あらむことを期待致し居候
乍末筆奥様に宜しく御傳言被下度候

一月二十日 敬具

木村定三

横井禮市様

書簡〇〇四〇 (M2917-3) 横井禮市 ↓ 木村定三 昭和一六年一月

二二日(消印判読できないが石楠花の時系列を考えると昭和一六年が妥
当か) 当館蔵

拝啓、新年の御悦申し上げます。旧年中は格別のご愛顧を蒙り厚く御礼
申し上げます。扱^き本日は「石楠花」の画料●て御送附下され有難く正く拝
受致しました。おついでのときに●●ものを却って御手数数を煩して終
い恐縮致して居ります。数日来急に寒氣を加へました。何卒御自愛をお
祈り上げます。先は右とりあえず御報告 不恵

横井禮市

正月廿二日

木村定三様

書簡〇〇五〇 (M2917-4) 横井禮市 ↓ 木村定三 昭和一六年六月
十一日(消印に6が見えるので昭和一六年か。日付は文中のものを採用)
当館蔵

前略、其後は御無沙汰致して居りますが変り御座いませんですかお伺い
申し上げます。扱早速ですが先般お約束の高島屋出品の小品「櫻」が売約
となりました由本日●●より通知して参りましたので誠に申し訳御座
いませが該作品●御見合せ●度お願い申上候。東本様の次には再び
アレ以上の制作を試みて見る積りでは御座いますから何卒それまで御猶
豫賜り度お願い申し上げます。先はとりあえず御断り迄 不恵

六月廿一日

2 当館に所蔵なし。
3 当館蔵 (M2658)。

書簡〇〇六〇
屋市美術館蔵

木村定三



横井禮市

昭和三〇年二月二日

名古屋



書簡〇〇七〇
屋市美術館蔵

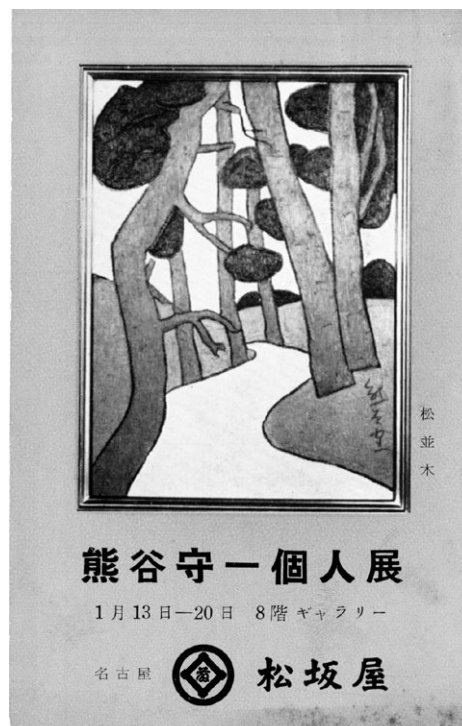
木村定三



横井禮市

昭和三年一月二日

名古屋



愛知県美術館研究紀要 第32号 木村定三コレクション編

2026年3月発行

編集・発行 愛知芸術文化センター 愛知県美術館

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

Tel: 052-971-5511 (代)

<https://www-art.aac.pref.aichi.jp/>


aichiprefecturalmuseumofart

制 作 共生印刷株式会社

Bulletin of the Aichi Prefectural Museum of Art No.32

Part2 Studies of The Kimura Teizo collection

2026

Edited and Published : Aichi Prefectural Museum of Art

1-13-2 Higashisakura, Higashi-ku, Nagoya 461-8525 Japan

Tel: +81-52-971-5511

Printed : Kyosei Printing Co., Ltd.

© 2026 Aichi Prefectural Museum of Art, All Rights Reserved.